

平成 27 年度

# 総研大 葉山年報

平成 27 年度総研大葉山年報 第 2 版

発行日:平成 29 年 3 月 13 日

発行:総合研究大学院大学

無断複写・転載禁止 Printed in Japan

# はじめに



総合研究大学院大学学長  
岡田泰伸

我々を取り巻く状況は、環境変動、世界情勢不安、格差の拡大など、地球規模の喫緊の課題が年々深刻さを増しています。これらに対応することが「高度専門人材」に求められることであり、大学院大学の役割として、そのような人材の育成と研究による社会貢献が求められます。この2つは大学院大学においては、独立に存在するものではなく、大学院教育による優れた研究者の育成と、その結果の研究成果としてなされるべきです。このような目的を達成するために、総合研究大学院大学(以下、総研大)は、1988年にわが国で最初に設立された大学院だけの大学(独立大学院大学)であり、人文・理工にわたる学術分野につき総合的な博士課程教育を、大学共同利用機関等を基盤機関として行う世界にも類例のないユニークな大学です。総研大の目標は、以下の3つになります。

1. 専門性と広い視野を併せ持ち、異分野連繋的・社会連携的な視点を持つ国際的研究者人材を育成する
2. 基盤機関と葉山の連係と、国内外研究者との共同利用研究によって、学際的で先導的(即ち新分野開拓・敷衍的)な研究を大学院生と共に展開する
3. 社会と連携する科学を創造・教育するアジア大学院教育拠点としての地位を確立する

平成27年度は、第2期中期目標期間の最終年度であり、26年度からの新執行部体制で、上記の目標を達成するために、「4つの強み」によって「5つの連ケイ」を進め「3つの戦略」を実行するという「4・5・3戦略」を定め、第3期中期目標期間における「機能強化」構想を7月に策定しました。「深い専門性」と「国際的な通用性」と「異分野連繋性」を兼ねそなえた研究者の養成を、基盤機関・機構等法人との連係で進めるために、教育は戦略I、研究は戦略II、基盤整備・強化は戦略IIIを定め、対応する取組で推進するというものです。平成27年度業務実績に対する「国立大学法人評価委員会」による評価結果は、4項目に対してすべて「中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」というものとなりました(詳細は本文参照)。平成28年度以降、これらの取組を更に強化して、第3期「機能強化」の達成を目指してまいります。

前述のように、世界の情勢は予断を許さないものとなってきており、このような時代にこそ、社会をよりよく変革するリーダーが求められます。本学は世界の研究を推進するリーダーを育成することで社会に貢献してゆきたいと思っております。これには、私たちも全力で取り組みますが、周囲の方々からのご支援なしではなしえないものです。皆様からのご指導・ご鞭撻を切にお願いする次第です。

以上

# 目次

<b>1. 総研大の目標</b> .....	<b>5</b>
1.1 「4つの強み」「5つの連ケイ」「3つの戦略」.....	5
1.2 「5つの取組」の平成27年度進捗実績.....	7
1.3 「平成27年度業務評価」の結果.....	8
<b>2. 総研大の組織構成</b> .....	<b>10</b>
<b>3. 教育事業</b> .....	<b>11</b>
3.1 全学的教育事業.....	11
3.1.1 フレッシュマンコース.....	11
3.1.2 学生企画事業.....	12
3.2 研究科を跨ぐ教育事業.....	12
3.2.1 学融合レクチャー.....	12
3.2.2 大統合自然史(準備).....	12
3.2.3 脳科学専攻間融合プログラム.....	13
3.2.4 学術資料マネジメント教育プログラム.....	13
3.2.5 統合生命科学教育プログラム.....	13
3.2.6 広い視野を備えた物理科学研究者を育成するためのコース別大学院教育プログラム.....	13
3.2.7 研究科合同セミナー.....	14
<b>4. 研究事業</b> .....	<b>15</b>
4.1 公募型共同研究事業.....	15
4.1.1 戦略的共同研究 I.....	15
4.1.2 育成型共同研究支援.....	15

4.1.3 グローバル共同研究.....	16
4.1.4 学融合共同研究.....	16
4.1.5 平成27年度実績.....	16
4.2 萌芽的研究会事業.....	18
4.3 論文出版補助事業.....	18
<b>5.全学基盤的事業.....</b>	<b>20</b>
5.1 広報社会連携室.....	20
5.1.1 報道機関対応.....	20
5.1.2 大学公式HP.....	20
5.1.3 イベント関連.....	20
5.1.4 広報誌.....	21
5.1.5 平成27年度地域交流イベント開催報告.....	21
5.2 アーカイブズ.....	22
5.3 学術情報基盤センター.....	23
5.3.1 本部図書館.....	23
5.3.2 情報基盤整備推進部.....	24
5.4 学生のための賞.....	26
5.5 修了生ネットワーク.....	27
<b>6.国際連携推進事業.....</b>	<b>28</b>
6.1 連携推進事業.....	28
6.1.1 国際的な広報・教育連携のための主な外国訪問.....	28
6.1.2 JSPS サマー・プログラム.....	29
6.1.3 国際コミュニケーション.....	29

6.1.4 第2回 総研大—UST 共同セミナー.....	29
6.2 支援事業.....	30
6.2.1 海外学生派遣事業.....	30
6.2.2 若手教員海外派遣事業.....	31
6.2.3 海外学生・研究者招聘プログラム.....	33
6.2.4 国際研究集会支援事業.....	34
6.2.5 国際交流協定等に関する事業.....	36
6.2.6 全学的語学教育事業支援.....	36
<b>7.社会貢献・社会連携.....</b>	<b>37</b>
7.1 学校教育への協力:横高アカデミア .....	37
7.2 地域貢献.....	37
7.2.1 講演会開催等.....	37
7.2.2 本部図書館の利用.....	38
<b>付録 A 平成 27 年度行事日程 .....</b>	<b>39</b>
<b>付録 B 平成27年度 YASU 通信 .....</b>	<b>40</b>
<b>付録 C 研究業績等.....</b>	<b>41</b>
<b>付録 D 学生の研究業績 .....</b>	<b>43</b>

# 1. 総研大の目標

総研大のビジョンである「最先端研究環境をベースに独創的な研究者を育成し、新分野を開拓する大学院大学」のもと、平成 27 年度は平成 26 年度に就任した岡田泰伸学長のもと、引き続き改革を行いました。

## 1.1 「4つの強み」「5つの連ケイ」「3つの戦略」

総研大の目標は、高度専門性と総合性を兼ね備えた人材の育成です。新しい学術問題を発掘し、学問的、社会的な新しい課題を設定できるような研究者を育成することであるとも言えます。

これまでも部分的には総研大が取り組んできたものも ありますが、岡田泰伸学長のもとに、体系的な戦略となりました。総研大では各分野で日本を代表する研究所(共同利用機関)が専攻における教育を行っていることから、高度専門性に関する教育については基盤専攻(共同利用機関等に設置されている専攻)において、総合的な教育は葉山で行う、という任務分担が自然に行われてきました。しかし、総研大の目標を達成するためには、これまで以上に体系的、組織的な総合教育を行なうことが必要です。高度専門性は総合性の基礎の上に築かれるものであるという認識のもとに、総合性教育と高度専門教育を進めることが必要です。しかも、そのための取組は、基盤機関・機構等法人との密な関係のもとで行われなければなりません。

そこで、運営会議や研究科教授会での議論、および基盤機関・機構等法人との議論を積み重ねた上で、平成 27 年 7 月に、次図に要約するような第 3 期中期目標期間における「機能強化」構想を策定しました。それは、「最先端研究環境をベースに独創的な研究者を育成し、新分野を開拓する大学院大学」というビジョンを掲げ、「4つの強み」を生かし、「5つの連ケイ」によって、「3つの戦略」を取るというものであります(次ページの図 1 参照)。

この「3つの戦略」の達成のためになされるべき取組として、次図 2 の 5 点(5つの取組)を抽出し、それらの実行によって「新しい科学と文化を創造し、わが国と世界の研究プロジェクトを多数担う人材を育成し、社会に供給する」という価値目標に向かっていきたいと考えております。

ビジョン:最先端研究環境をベースに独創的な研究者を育成し、新分野を開拓する大学院大学

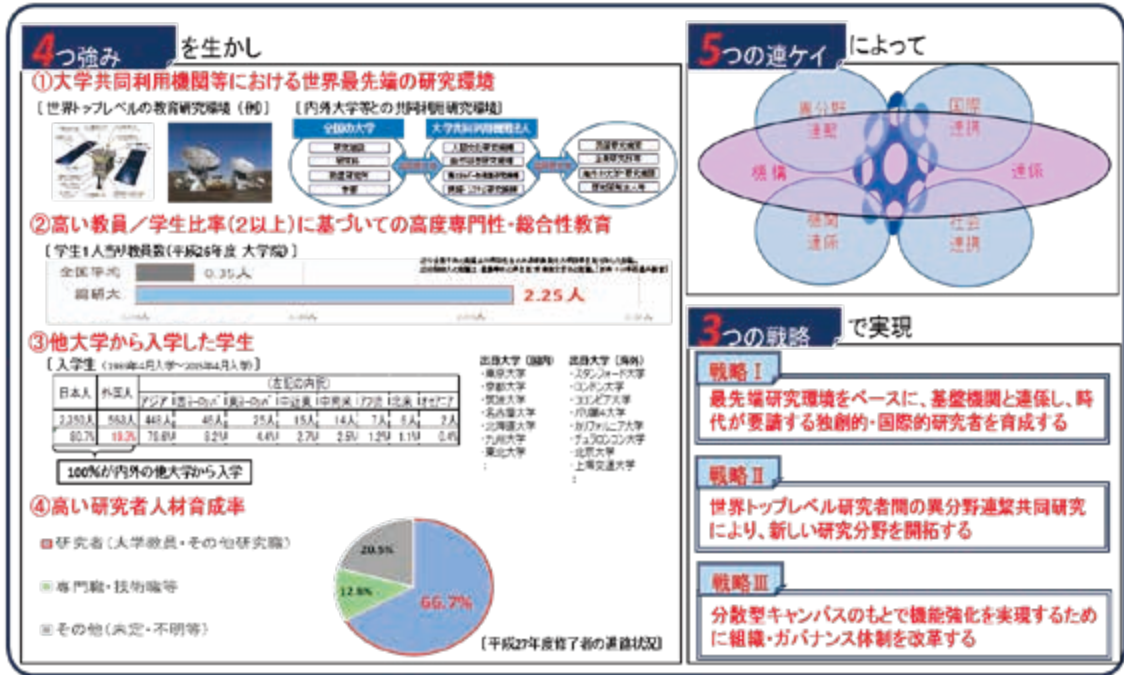
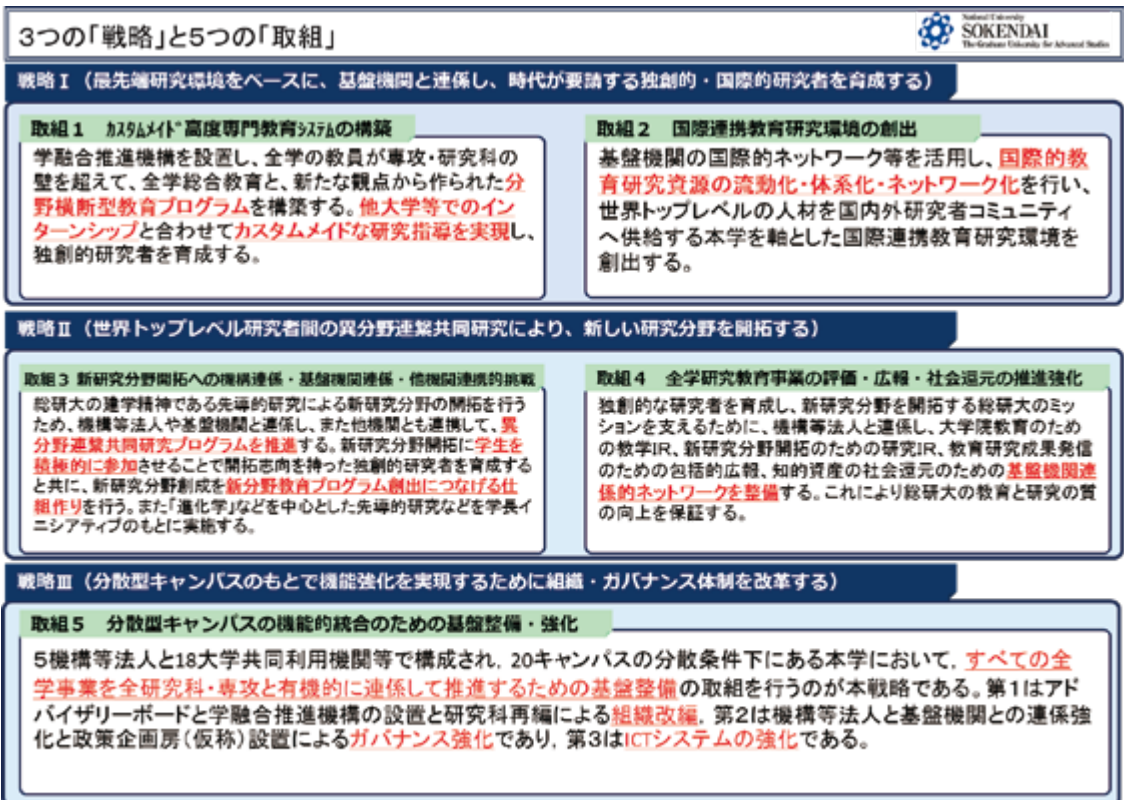


図1: 「4つの強み」、「5つの連ケイ」、「3つの戦略」



➡ **新しい科学と文化を創造し、わが国と世界の研究プロジェクトを多数担う人材を育成し、社会に供給する**

図2: 3つの戦略と5つの取組



## 1.2「5つの取組」の平成27年度進捗実績

「第3期機能強化構想」における「5つの取組」を、平成27年度より前倒的に進めました。

以下にその実績を記載します。

### 取組1: カスタムメイド高度専門教育システムの構築

- ① 分野横断型教育プログラム育成・推進(H26 3件、H27 +1件試行)
- ② 総合教養教育「フレッシュマンコース」実施、「科学と社会」教育の全学化(H26 立上、H27 4研究科必修化)
- ③ 全学教育担当・学融合推進センター専任教員(助教)新規採用(H27)
- ④ 「大統合自然史」教育プログラム研究会立上・開催による開講準備(H27)
- ⑤ 教育研究委員会に総合教養教育プログラム検討分科会、分野横断教育プログラム検討分科会、インターンシップ制度検討分科会設置・開催

### 取組2: 国際連携教育研究環境の創出

- ① SOKENDAI-UST セミナーの開催(H26 1回、H27 1回)
- ② 国際・社会連携推進部と国際・社会連携課の新設(H27)
- ③ 国際連携担当・学融合推進センター専任教員(助教)新規採用(H27)
- ④ 英語教育プログラムの全学化準備支援(H27)
- ⑤ 留学生入学説明会の開催(H26 24回、H27 20回)
- ⑥ インターンシップ制度検討分科会における海外インターンシップ制度の検討
- ⑦ 海外インターンシップの試行的実施
- ⑧ 国際連携推進委員会立上

### 取組3: 新研究(教育)分野開拓への機構連係・他機関連係的挑戦

- ① 専攻・研究科・機構横断型・学生参加型「学融合共同研究」(H26 4件、H27 7件)
- ② 異分野連繋・新分野研究開拓WG立上
- ③ 学長イニシアティブ「進化学」先導的共同研究WG立上

### 取組4: 全学研究教育事業の評価・広報・社会還元への推進強化

- ① 国際・社会連携推進部と国際・社会連携課の新設(H27)
- ② 総研大科学者賞授賞とその広報(H27より2件)

- ③ 学長対談とその広報(H27 小林誠先生、中村真先生の2件)
- ④ 社会連携推進WG立上
- ⑤ IR担当・学融合推進センター専任教員(准教授)新規採用
- ⑥ IR資料、自己点検評価資料としての「葉山年報」の発行
- ⑦ IRツールとしての Scopus、Scival システムの導入
- ⑧ 知財・社会貢献担当・学融合推進センター専任教員(助教)配置

#### 取組5:分散型キャンパスの機能的統合のための基盤整備・強化

- ① 学長・機構長等連絡協議会開催(H26 2回、H27 2回)
- ② シニアパートナー会議設置開催(H26 1回、H27 2回)
- ③ 情報基盤センターと附属図書館の統合による「学術情報基盤センター」の設置
- ④ 学融合推進機構設置にむけて準備室立上WGの設置

### 1.3「平成27年度業務評価」の結果

上記、前倒し的な進捗の結果、国立大学法人評価委員会による「平成27年度業務評価」の結果は「順調に進んでいる」との評価でした。以下に、評価の結果を記載します。

- 1) 全体評価:「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいる
  - ① 学長リーダーシップの下、「フレッシュマンコース」の必修化による総合教育科目の充実
  - ② 法人の枠組みを越えた異分野連繋型の共同研究に重点的な資源配分
  - ③ 「カスタムメイド高度専門教育システム構築」に向けて、総合教養教育、分野横断型教育、海外を含めたインターンシップ制度についての検討
  - ④ 学術情報基盤の一体的整備を行うため、附属図書館と情報基盤センターを統合して、「学術情報基盤センター」を設置
  - ⑤ 全学教育、研究、社会連携、国際連携事業を、機構等法人・基盤機関間で連携して推進するため、学融合推進機構の設置に向けた準備
- 2) 項目的評価
  - ① 業務運営の改善及び効率化:「中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」
  - ② 財務内容の改善:「中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」
  - ③ 自己点検・評価及び情報提供:「中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」

④ その他業務運営:「中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」

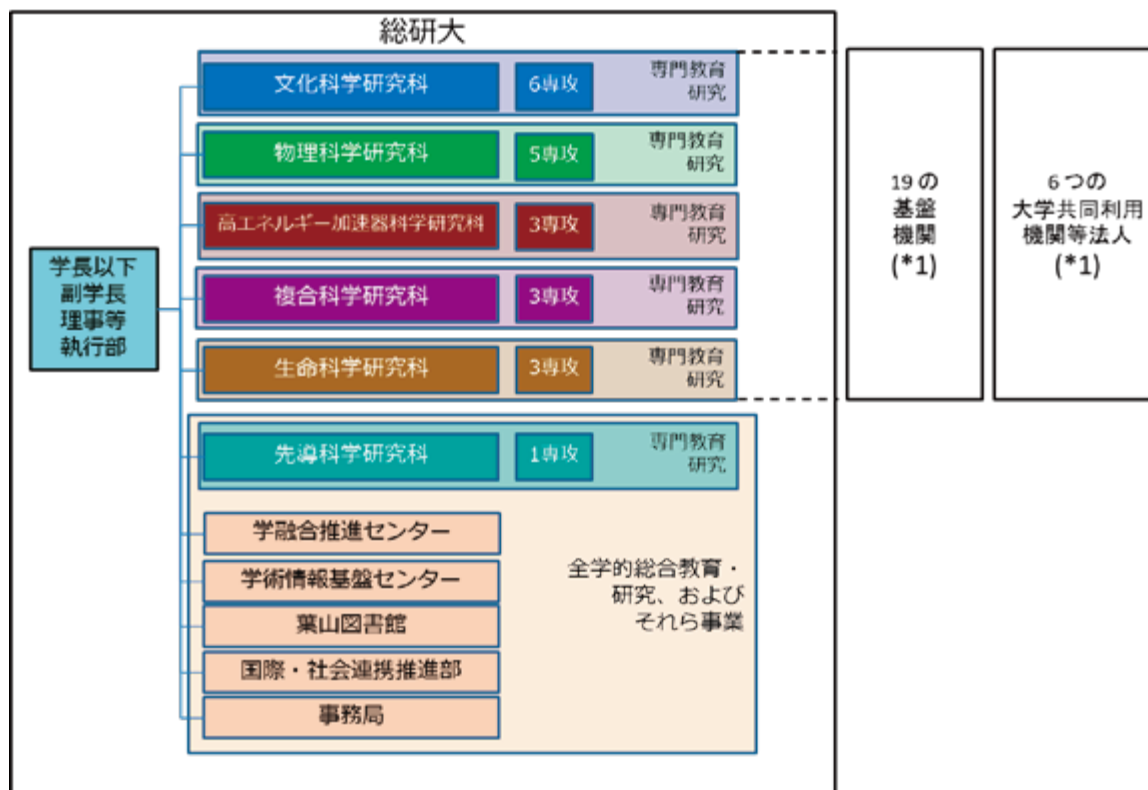
### 3) 注目事項

- ① 異分野連繋型の法人内共同研究の推進:「研究科・専攻や、基盤機関を設置する機構等法人の枠組みを越えた研究体制の組織化や、共同研究によって生じた人的つながりによる機構等法人間や基盤機関間の関係の形成を推進している」
- ② 学術資料のマネジメントに長けた人材の育成:「先端的な学術資料マネジメント能力を身に付けた人材を育成する「学術資料マネジメント教育プログラム」の平成28年度からの実施に向け、全体的なコース提供を試行的に行っている」
- ③ 全学共同教育研究事業等の推進:「学融合推進センターにおいて全学共同教育研究事業を一元的に推進しているほか、研究科・専攻横断教育プログラムの実施や新入生を対象とした全学共通の総合教育科目“フレッシュマンコース”を4研究科において必修化するなど、学問分野にとらわれない創造性豊かな研究者の育成に向けた取組を進めている」

## 2. 総研大の組織構成

総研大の平成 27 年度の組織構成は、大きくまとめると以下のようになります。

- 総研大は、大学共同利用機関法人等に属する 19 の研究所等が 6 つの研究科で構成されています
- 葉山に本部があります
- 高度専門性に関する研究教育については各研究科において実施し、全学的な総合的な研究教育は葉山で行うという形になっております。



(\*1) 総研大の各専攻と基盤機関、大学共同利用機関等法人との紐づけに関しては要覧をご参照ください。  
<http://www.soken.ac.jp/disclosure/pr/outline/>

### 3. 教育事業

総研大で実施されている教育事業には、大きく分けて以下があります。葉山では、全学的な総合教育として、以下の図における専攻内教育事業以外の事業を行っています。この分類に基づいて、各々の説明を記載します。

全学的教育事業	研究科を跨ぐ教育事業	専攻内専門教育
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ フレッシュマンコース (4研究科で必修)               <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学生セミナー</li> <li>● 科学と社会</li> </ul> </li> <li>□ 学生企画事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 学融合レクチャー (含 大統合自然史準備)</li> <li>◆ 脳科学専攻間融合プログラム</li> <li>◆ 学術資料マネジメント教育プログラム</li> <li>◆ 統合生命科学教育プログラム</li> <li>◆ 広い視野を備えた物理科学研究者を育成するためのコース別大学院教育プログラム (物理科学研究科と高エネルギー加速器科学研究科)</li> <li>□ 研究科合同セミナー               <ul style="list-style-type: none"> <li>● 生命科学リトリート</li> <li>● 学術交流フォーラム</li> <li>● 物理科学学生セミナー</li> <li>● 複合科学クロストーク</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 各専攻内で実施される専門教育</li> </ul>
本部の枠内で提供される教育事業等		各研究科の教授会
◆ 単位付与あり      □ 単位付与なし		

※専攻における講義もそのほとんどのものは他専攻、他研究科にも開かれていますので、上記の分類は「主たる対象」によるものであって、厳密なものではありません。

#### 3.1 全学的教育事業

##### 3.1.1 フレッシュマンコース

平成 26 年度より試行的に行われていたフレッシュマンウィークが平成 27 年度 4 月よりフレッシュマンコース(2単位)となり全学教育となりました。春は日本語で、秋は英語で行われます。この講義は入学式直後に合宿形式で行ない、自分とは異なるさまざまな専攻の学生との交流を通じて、研究者としてのアイデンティティーを確立するためのものです。5年一貫制博士課程を持つ 5 研究科のうち 4 研究科では必修科目となりました。27 年度のプログラムには、以下等が含まれます。(実施主体:フレッシュマンコース実施委員会)

- 知のフロンティア
- 学生セミナー
- 研究者と社会
- ライティング

### 3.1.2 学生企画事業

学生企画事業は、総研大の教育研究理念に基づき、広い視野を持ち、実践的な問題解決能力を持つ研究者を育成するため、本学学生が主体となり研究科の枠を越えて企画実施する交流事業や、研究会、勉強会等のプロジェクトです。(参加者 34 名)(実施主体:学融合推進センター)

## 3.2 研究科を跨ぐ教育事業

### 3.2.1 学融合レクチャー

学融合レクチャーは総研大の教員が中心となっで行なう合宿型の集中講義で、学生に広い視野を与えるために行なっています。実施の提案のある教員からの申し込みを学融合推進センター運営委員会で審議して採用します。他大学、大学院生にも開かれる講義とすることができます。平成 27 年度に実施したレクチャーは以下のとおりです。(実施主体:学融合推進センター)

- 8/10-8/12 科学コミュニケーション(基礎生物学専攻 倉田智子)
- 8/26-30,11/27 学術映像の基礎 みる・つくる 2015ー映像による科学の展望  
(比較文化学専攻 岸上伸啓)
- 8/31-9/2 科学技術倫理と知的財産権 I(メディア社会文化専攻 児玉晴男)
- 9/1-9/2 研究と社会 (生命共生体進化学専攻 伊藤憲二)
- 9/10-9/11 太陽系の科学:南極探査と惑星探査の最前線(学融合推進センター 小松睦美)
- 10/13～ 科学と対話 (10/13 より 15 回、情報学専攻 坊農真弓)
- 11/26-11/28 第2回総研大ーUST共同セミナー、「ビッグデータと計算科学ワークショップ」  
(情報学専攻 宇野毅明)
- 12/14,15,17 科学技術倫理と知的財産権 II(メディア社会文化専攻 児玉晴男)

### 3.2.2 大統合自然史(準備)

第3期中期目標・計画「基盤機関の優れた人的・研究的環境を活用し、研究現場で博士課程教育を行う特性を活かすことにより、新しい課題を発掘し、解決できる独創的研究者を育成する」を踏まえ、「自立した研究者として、自らの研究の学問的及び社会的位置づけを俯瞰するための総合教育プログラム」が実施されることになりました。これを受けて、主に大学学部課程終了直後の大学院生を対象とした、研究者としての「教養科目」たる授業科目の開発に着手しました。

開発科目「大統合自然史」は、宇宙の始まりから現在まで、人類を含む全自然界で生じた出来事について、基盤機関を核とする幅広い専門研究分野の成果を持ち寄ることで、時間軸に沿った森羅万象の因果関係に迫れることを学びます。これによって、個別専門性に留まらない独立した視座を得て、自らの研究の学問的および社会的位置付けを俯瞰できるようになることを目的としています。

27年度は、28年度実施に向けた、授業開発研究会を4回開催し、教育目標の設定とカリキュラムのデザインについて討議を行いました。

### 3.2.3 脳科学専攻間融合プログラム

脳科学の分野では、医学生理学はもとより、より広範な生物学、工学、薬学、情報学、社会科学などの基礎知識と広い視野を持つ研究者が求められています。本プログラムでは、このような脳科学に関する広い分野から総研大内外の専門家の先生方に講義や演習を担当していただくものです。(実施主体:脳科学専攻間融合プログラム委員会)

### 3.2.4 学術資料マネジメント教育プログラム

多種多様な学術資料の読み取り手法、最先端の科学的手法を用いた分析、学術資料情報の記録と科学的保存管理、学術資料を通じた研究プレゼンテーションなど、先端的な学術資料に関する講義・演習等を通じ、文系理系を問わず研究者と必要な学術資料マネジメント能力を養成することを目的とした授業科目を提供します。このプログラムは28年度から開設しました。(実施主体:学術資料マネジメント教育プログラム委員会)

### 3.2.5 統合生命科学教育プログラム

現代的な生命科学の流れの中で、これからの生物学に寄与することの出来る研究者を育成するためには、生物科学のみならず、物理科学、数理科学、情報科学などに通じる学際的かつ統合的な生命観を育てる大学院教育がなされなければなりません。本プログラムでは、国内最先端の研究機関において幅広い分野の大学院教育が行われているという総研大の特色を生かし、統合生命科学の新しいカリキュラムを作成・実施しています。(実施主体:統合生命科学教育プログラム委員会)

### 3.2.6 広い視野を備えた物理科学研究者を育成するためのコース別大学院教育プログラム

本プログラムは物理科学研究科と高エネルギー加速器科学研究科が合同で行う双方にまたがる教育プログラムで、物理科学の学問分野において高度の専門的資質とともに幅広い視野と国際的通用性を備え

た、社会のニーズに応えることのできる研究者の育成を目指した教育を行っています。(実施主体:広い視野を備えた物理科学研究者を育成するためのコース別大学院教育プログラム委員会)

### 3.2.7 研究科合同セミナー

研究科を単位とする総合的な教育事業です。研究科の学生と教員が参加して研究交流を行う「研究科合同セミナー」、および複数の専攻が協力して行うコース・プログラム等、総研大における受講可能な講義の幅はきわめて広がっています。

#### ■ 生命科学リトリート(参加者数:125名)

生命科学リトリートは、平成16年度に「生命科学・先導科学研究科合同セミナー」としてスタートし平成23年度より「生命科学セミナー」と改称されたプログラムです。生命科学の研究教育に携わる基礎生物学専攻、生理学専攻、遺伝学専攻および生命共生体進化学専攻の4専攻の教員と学生が一堂に会して学術交流を行う希少な機会となっています。(実施責任者:生命科学研究科)

#### ■ 学術交流フォーラム 2015(参加者数:75名)

文化科学研究科所属の全専攻の学生と教員が交流し合うことで、教育・研究の質の向上と、最新の研究に関する情報を交換し合うこと、そして本研究科の教育研究成果の一端を全学並びに一般社会に公開することを目的とします。(実施責任者:文化科学研究科)

#### ■ 物理科学学生セミナー(参加者数:67名)

高エネルギー加速器研究機構では、総研大高エネルギー加速器科学研究科の学生および同機構で学ぶ大学院生の研究成果を発表し合うことを目的に平成26年度から同事業を開催しています。今年度は、10月27日(火)に「KEK スチューデント・デイ」を開催しました。(実施責任者:物理科学研究科)

#### ■ 複合科学クロストーク(参加者数:49名)

次世代の融合研究を産み出し担っていく若手研究者の「つながり」を創り出し深めていく「クロストーク」を毎年開催しています。情報・システム研究機構が主催する若手研究者クロストークを共催し、複合科学研究科と遺伝学専攻に加え他研究機構の教職員・学生が「データを取る人、使う人～融合研究・共同研究の未来を語る～」をテーマに学術交流を実施し教育研究連携強化を図ると共に、学生による研究発表を実施しています。(実施責任者:複合科学研究科)



## 4. 研究事業

総研大では創設以来、総研大のカバーする広範な専門分野の協力によって、新しい研究分野を開拓することを目標としてきました。学融合推進センターも重要な事業として学際的分野、専攻横断的分野など、学融合を目指した学内共同研究の支援を実施してきました。支援には、「公募型共同研究事業」「萌芽的研究会事業」と「論文出版補助事業」があります。各事業の内容を以下に示します。(実施主体:学融合推進センター)

公募型共同研究事業	萌芽的研究会制度	論文出版補助事業
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 戦略的共同研究Ⅰ*<sup>1</sup></li> <li>◆ 育成型共同研究支援*<sup>1</sup></li> <li>◆ グローバル共同研究*<sup>1</sup></li> <li>◆ 学融合共同研究*<sup>2</sup></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 研究科・機構を越えた試行的な研究会を開催して共同研究のフィージビリティを検討する機会とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 総研大の所属を明示し、学生が著者に入っている論文への出版補助</li> </ul>
学融合推進センター運営委員会		

\*<sup>1</sup> 継続実施中    \*<sup>2</sup> 27年度新規応募

### 4.1 公募型共同研究事業

#### 4.1.1 戦略的共同研究Ⅰ

異分野の研究者間における共同研究を通じ、これまでに無かった観点・発想・手法・技術を用いることにより新しい研究領域・方法の開拓を目指す支援枠組みとして平成24年度に設けられました。複数の研究分野に跨る課題について共同研究を推進することにより、各研究科または各専攻間における研究交流の更なる活性化と、本学の学術研究及び教育の柱となる学問領域の創成を目指したものです。

#### 4.1.2 育成型共同研究支援

平成24年度まで実施してきた「若手研究者研究支援」「女性研究者研究支援」の各事業枠組みを統合し、申請者個人の研究を支援する枠組みから、将来的にPIとして複数分野を横断する共同研究等においてリーダーシップを発揮することが期待される次世代研究者に対する支援を行う枠組みへと変更いたしました。

### 4.1.3 グローバル共同研究

平成 26 年度より、「異分野連携」「社会連携」「基盤機関連携」「国際連携」の 4 つをキーワードを軸として、従来の学問分野の枠を超えた独創的、国際的な学術研究の推進、並びに社会に貢献する先導的学問分野の開拓を目的に総研大を代表とする共同研究として「グローバル共同研究」が発足しました。基盤専攻の教員、葉山の教員、総研大の学生(修了生も含む)、外国研究機関の研究者、総研大以外の機関の研究者を広くメンバーとして擁していることが条件です。毎年 1 件を採択し、3 年間のプロジェクトとなります。最終年度には報告をかねた国際シンポジウムの開催が義務づけられています。(平成 27 年度は新規採択はありませんでした。)

### 4.1.4 学融合共同研究

平成 26 年度より設置され、「グローバル共同研究」の準備として、また新しい発想による研究の試行として、少し条件を緩和した共同研究の枠組みです。葉山の教員が入る基盤－葉山型の組織の他に異なる研究科および機構に属する教員をメンバーとする基盤－基盤型の研究組織も可能です。2 年間のプロジェクトです。

### 4.1.5 平成 27 年度実績

各研究事業における採択研究は以下のとおりです。

#### ■ 戦略的共同研究 I (継続分)

タイトル	専攻名	代表者	期間
「料理」の環境文化史:生態資源の選択、収奪、消費の過程が環境に与えるインパクト	地域文化学専攻	野林厚志	H25-27(3ケ年)
自然界の様々なスケールに現れる高エネルギージェット現象の解明	素粒子原子核専攻	板倉 数記	H25-27(3ケ年)
温度感受システムの進化生理学 —無脊椎動物をターゲットとして—	生命共生体進化学専攻	颯田 葉子	H25-27(3ケ年)
「料理」の環境文化史:生態資源の選択、収奪、消費の過程が環境に与えるインパクト	地域文化学専攻	野林厚志	H25-27(3ケ年)

#### ■ 育成型共同研究支援(継続分)

タイトル	専攻名	代表者	期間
科学技術コミュニケーションの実践知理解に基づくディスカッション型教育メソッドの開発	情報学専攻	坊農 真弓	H25-27(3ケ年)

■ グローバル共同研究(継続分)

	タイトル	専攻名	代表者	期間
	失われた生態システムの多様性解明に向けた古代 DNA 研究の展開	統計科学専攻	足立 淳	H26-28 (3 ケ年)

■ 学融合共同研究

	タイトル	専攻名	代表者	期間
継続	新たな量子物理量の基礎の探求と精密測定への応用	素粒子原子核専攻	筒井 泉	H26-27(2 ケ年)
継続	細胞建築の博物学	遺伝学専攻	木村 暁	H26-27(2 ケ年)
継続	日本列島人の起源	遺伝学専攻	斎藤 成也	H26-27(2 ケ年)
継続	極域湖沼から探る生態系のメジャートレンド	極域科学専攻	田邊 優貴子	H26-27(2 ケ年)
継続	有害捕獲された野生動物の利用とその過程で起こる諸問題の検討ーカラスを例としてー	学融合推進センター	塚原 直樹	H26-27(2 ケ年)
新規	社会と研究のインターフェースとしての展示に関する総合的研究	地域文化学専攻	佐藤 浩司	H27-28(2 ケ年)
新規	動物が「見えない光」を受容するメカニズムー化学と生理学を融合したアプローチー	構造分子科学専攻	古谷 祐詞	H27-28(2 ケ年)
新規	大型科学施設の連携で切り拓く表面の科学	加速器科学専攻	都丸 隆行	H27-28(2 ケ年)
新規	オーロラと人間社会の過去・現在・未来	極域科学専攻	片岡 龍峰	H27-28(2 ケ年)
新規	自然界の蛍光の世界を理解するー光情報解析と生物学的解析の融合ー	情報学専攻	佐藤 いまり	H27-28(2 ケ年)
新規	総研大の研究者および研究を俯瞰的に把握するための情報統合の研究	情報学専攻	武田 英明	H27-28(2 ケ年)
新規	動物福祉学に向けた文理融合研究ーニワトリをモデルとしてー	基礎生物学専攻	新村 毅	H27-28(2 ケ年)

## 4.2 萌芽的研究会事業

研究科・機構を越えた試行的な研究会を開催して共同研究のフイー ジビリティを検討する機会とするものです。平成 27 年度に採択された研究会は以下のとおりです。

タイトル	専攻名	代表者
「キュレーション」の学際的发展についての研究会	学融合推進センター	小松 睦美
学術とことば—バイリンガル世紀の日本語創造を考える—	学融合推進センター	七田 麻美子
惑星科学と社会の相互の関係の在り方についての研究会	極域科学専攻	山口 亮
観相学・観相資料の総合的・学融合的な研究準備会	日本文学専攻	相田 満
量子論の諸問題と今後の発展	素粒子原子核専攻	筒井 泉

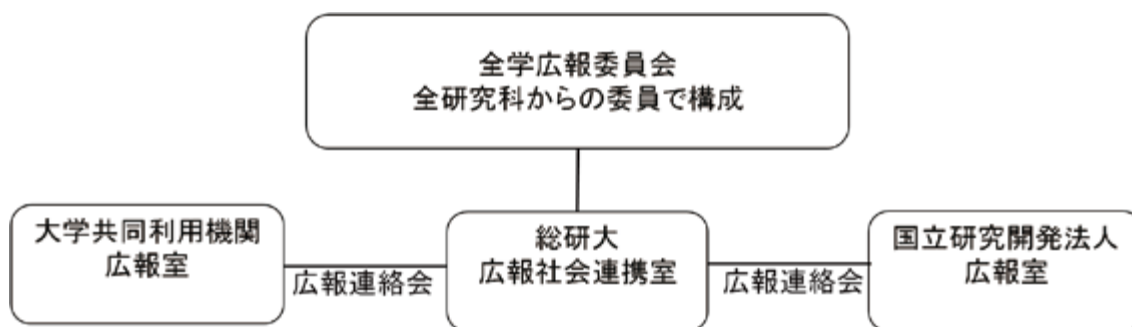
## 4.3 論文出版補助事業

総研大の所属を明示し、かつ学生が著者に入っている論文に限定して出版補助しています。これは学生の論文出版を強く推奨するためです。平成 27 年度に採択された研究事業は以下のとおりです。

著者名	タイトル	掲載誌情報
Anjali John Kaithakkal, Yoshinori Suematsu, Masahito Kubo	Photospheric Flow Field Related to the Evolution of the Sun's Polar Magnetic Patches Observed by Hinode Solar Optical Telescope	The Astrophysical Journal (ApJ)
石田 哲朗、小川 泰信、門倉 昭	Direct observations of blob deformation during a substorm	Annales Geophysicae
鈴木 智子、嶋川 里澄、山元 萌黄、児玉 忠恭	Galaxy formation at $z > 3$ revealed by narrow-band selected [OIII] Emission Line Galaxies	Astrophysical Journal
村 俊哉、田中 実	foxl3 is a germ cell-intrinsic factor involved in sperm-egg fate decision in medaka	米科学誌 Science
吉田 后那、木下 充代、蟻川 謙太郎	Plant scents modify innate colour preference in foraging swallowtail butterflies	Biology Letters
羽賀 崇史、土居 明広、村田 泰宏	Determination of Central Engine Position and Accretion Disk Structure in NGC 4261 by Core Shift Measurements	The Astrophysical Journal (ApJ)
桜井 準也、浜名 崇、宮崎 聡、小宮山 裕	PROPERTIES OF WEAK LENSING CLUSTERS DETECTED ON HYPER SUPRIME-CAM'S 2.3 DEG2 FIELD	Astrophysical Journal

石川 将吾、尾上 匡房、 柏川 伸成	The very wide-field gzK galaxy survey -- I. Details of the clustering properties of star-forming galaxies at $z \sim 2$	Monthly Notices of the Royal Astronomical Society
西本 れい、加塩 麻紀子、富永 真琴	Propofol-induced pain sensation involves multiple mechanisms in sensory neurons	Pflügers Archiv - European Journal of Physiology
能地 宏、宮尾 祐介	Left-corner Parsing for Dependency Grammar	自然言語処理
大橋 りえ、椎名伸之、 高雄 啓三	Comprehensive behavioral analysis of RNG105(Caprin1) heterozygous mice: Reduced social interaction and attenuated response to novelty	Scientific Reports
Pei-Ju Chen, 松下 敦子、 蟻川 謙太郎	Extreme spectral richness in the eye of the Common Bluebottle butterfly, <i>Graphium sarpedon</i> (アオスジアゲハ複眼の極めて高い分光的多様性)	Frontiers in Ecology and Evolution
済藤 祐理子、今西 昌俊	Near-Infrared Spectroscopy of Quasars at $z \sim 3$ and Estimates of Their Supermassive Black Hole Masses	Publications of the Astronomical Society of Japan
Daehyeon Oh, Satoshi Mayama, Saeko Hayashi, Masanori Iye, Jun Hashimoto, Nobuhiko Kusakabe, Ryo Kandori, Jungmi Kwon, Takuya Suenaga	Near-infrared imaging polarimetry of LkCa 15 : A possible warped inner disk	Publications of the Astronomical Society of Japan
早水 桃子	On the existence of infinitely many universal tree-based networks	Journal of Theoretical Biology
谷口 琴美、斎藤 正雄、 中村 文隆、亀野 誠二	Implication of Formation Mechanisms of HC5N in TMC-1 as Studied by $^{13}\text{C}$ Isotopic Fractionation	The Astrophysical Journal (ApJ)

## 5.全学基盤的事業



### 5.1 広報社会連携室

広報社会連携室は、総合研究大学院大学の広報活動に係る対外的窓口です。広く學術の振興と普及、及び優れた研究成果の公的流通の促進を目的として、本学で行われている教育研究活動の成果を一般社会に発信・還元しています。平成 27 年度の主な活動は以下となります。

#### 5.1.1 報道機関対応

基盤機関広報室との協力により、主に総研大院生が著者となった論文について、基盤機関との共同プレスリリースを行っています。平成 27 年度に行った研究論文に関するプレスリリースは、付録をご参照下さい。

プレスリリース以外にも、マスメディアからの取材対応、メディアへの広報活動等を行っています。例えば、平成 27 年度後半には、地元新聞社との連携企画『最先端の現場--総研大発--』(平成 28 年度掲載開始)の準備を終えました。本企画は、本学の知名度向上と総研大教員の研究の社会還元、地元社会連携の方途として、本学教員の研究内容の一般向け記事が定期的に新聞紙面に掲載されています。

#### 5.1.2 大学公式 HP

大学公式 HP の運用を行っています。平成 26 年にリニューアルを行った HP の運用やアクセス解析による分析を行っています。尚、新 HP は、レスポンス・ウェブデザインの導入によって、近年増加しているスマートフォンやタブレット端末など表示幅の異なるさまざまな閲覧 機器への対応も実現しています。

#### 5.1.3 イベント関連

広報社会連携室では、主催や共催等含めて、一般市民向けのイベントを開催し、総研大の教育研究の取組を発信しています。平成 27 年度は以下 4 点を行いました。

- 湘南国際村フェスティバルにおける講演会や観望会(参加者数は 5.1.5 参照)
- サイエンスカフェ(参加者数は 5.1.5 参照)

- 中高生のための科学セミナー（参加者数は 5.1.5 参照）
- 大学共同利用機関シンポジウム及び自然科学研究機構シンポジウムでの総研大ブース出展
  - ・ 第 19 回自然科学研究機構シンポジウム【2015 年 9 月 20 日開催】 495 名参加
  - ・ 第 20 回自然科学研究機構シンポジウム【2016 年 3 月 13 日開催】 413 名参加

#### 5.1.4 広報誌

広報社会連携室で作成している広報誌は以下 2 点になります。

- 大学要覧
- 総研大ニュースレター作成

#### 5.1.5 平成 27 年度地域交流イベント開催報告

##### ■ 「湘南国際村フェスティバル 2015」

日程:平成 27 年 5 月 3 日(日・祝)

- 講演会「太陽系の進化を探る—「はやぶさ」から「はやぶさ 2」へ—」
  - ・ 講師:小松睦美 総合研究大学院大学 助教
  - ・ 場所:葉山キャンパス 2F 講義室
  - ・ 時間:14:00~15:30
  - ・ 参加者:105 名
- サイエンスカフェ
  - ・ 深津亜里紗 構造分子科学専攻 学生
    - ・ 「人工光合成への挑戦～光で引き起こされる化学反応に迫る～」
  - ・ 春藤献一 国際日本研究専攻 学生
    - ・ 「戦後動物愛護運動のはじまり-逗子に生きた英国人ジャック・ブリンクリーの思い-」
  - ・ 菊池彩花 基礎生物学専攻 学生
    - ・ 「「サンゴ礁」はなぜ海の熱帯林なのか？」
  - ・ 場所:葉山キャンパス 1F テラス四季彩花
  - ・ 時間:16:00~18:00
  - ・ 参加者:35 名
- 観望会「春の夜空を楽しもう」サイエンスカフェ
  - ・ 場所:葉山キャンパス 正面玄関入口付近
  - ・ 時間:18:30~20:00
  - ・ 参加者:43 名
- 中高生のための科学セミナー「ペンギンとマグロとクジラの最新科学」
  - ・ 講師:渡辺佑基 極域科学専攻 助教
  - ・ 場所:横須賀市自然・人文博物館 講座室
  - ・ 日程:平成 27 年 7 月 28 日(火)
  - ・ 時間:14:00~16:00
  - ・ 参加者:81 名
- サイエンスカフェ「脳とコンピューターをつなげる」
  - ・ 講師:西村幸男 生理化学専攻 准教授
  - ・ 場所:理科ハウス(逗子市)
  - ・ 日程:平成 28 年 1 月 31 日(日)
  - ・ 時間:14:00~16:00
  - ・ 参加者:23 名

## 5.2 アーカイブズ

本学の創設に関わる文書と本学のニュースが新聞等メディアに掲載された記事の保存、整理、公開（総合研究大学院大学創設資料データベース）（総研大新聞記事データベース）を行うと共に、法人文書管理法による「歴史公文書」についての中間書庫業務を行ってなっています。

また、高エネルギー加速器研究機構、核融合科学研究所、分子科学研究所等、総研大及び基盤機関で行われている4つのアーカイブズデータを一括検索できる横断型データベース（総研大基盤連携資料情報データベース）を運営し公開しています。

平成27年度は、「総合研究大学院大学創設資料データ」2,888件（累計15,514件）、「会議資料データ作成」1,402件（累計5,096件）「総研大関係新聞記事データ」33件（累計397件）を作成・公開するとともに、平成28年3月3日から4日の2日間にわたり、葉山キャンパスにおいて、本学の基盤機関と呼ばれる大学共同利用機関に属する研究機関を中心にアーカイブズ研究会を開催し、アーカイブズ公開用データベースシステムの今後の展開と構築について、議論を交わしました。



## 5.3 学術情報基盤センター

総研大図書館は、学術情報コンテンツの読者であるだけでなく発信者でもある本学の教員・学生に利用されていますが、利用者が全国に散在しているため、ネットワークを通じたデジタル情報の取得、加工、共有、発信が必要不可欠の状況です。この認識のもとに、中長期的視野に立って、学術情報基盤の一体的整備と、学術デジタル情報アクセス体制の確立のため、平成27年7月に情報基盤センターと附属図書館を統合し学術情報基盤センターが設立されました。新センターでは、前者は情報基盤整備推進部と名称を変えました。後者の附属図書館は、葉山本部にある本部図書館と各基盤機関の図書室(館)の集合体ですので、この葉山年報では、本部図書館のタイトルの下に活動を報告します。

### 5.3.1 本部図書館

#### ■ 本部図書館の概要

本学の葉山キャンパスにあります図書館(本部図書館)は、以下の2つの機能を有しています。

##### ① 全学を対象とする大学附属図書館機能

- 各基盤機関に設置される図書室(館)とで形成される総合研究大学院大学附属図書館としての機能であり、電子ジャーナルや電子ブックなどの図書・学術雑誌・視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を収集・整理し、全学的に提供する大学附属図書館としての機能

##### ② 葉山本部キャンパスを対象とする本部図書館機能

- 電子ジャーナルや電子ブックなどの図書・学術雑誌・視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を収集・整理し、本部図書館利用者に提供するほか、葉山本部キャンパスにおいて図書の管理、貸し出し、リファレンスサービスなどを行う葉山本部図書館機能

#### ■ 平成27年度実施事業

##### 大学附属図書館(全学対象)として

##### ● E-JOURNAL

平成27年度年度に契約・購入し葉山キャンパスに提供した電子ジャーナル及び電子ブックは以下になります。

##### 電子ジャーナル

- Science Direct (143 タイトル)
- Springer Link (1,630 タイトル)
- Wiley Online Library (1,408 タイトル)
- Bio One (179 タイトル)
- JSTOR Archive (793 タイトル)
- GeoScienceWorld (47 タイトル)

## 電子ブック

- Springer eBooks (新規 13,606 冊・累計 69,503 冊)

また、論文検索データベースとしてSCOPUSを、その分析ツールとしてSciValを提供しました。

### ● SOKENDAI リポジトリ

学位取得論文の他、本学の教員による論文、著書、発表資料等の学術資料のアーカイブズを行い、インターネットで公開しています。平成27年度は新たに学術論文(47 タイトル)、学位論文(87 タイトル)、著書等(62 件)を登録し、累計が学術論文(1,022 タイトル)、学位論文(1,829 タイトル)、著書等(1,341 件)となりました。また、「秋篠宮殿下の鶏コレクションデータベース」「総研大関係新聞記事データベース」等、ACI SOKENDAI システムにより、18 のデータベースを公開しました。

## 本部図書館(葉山キャンパス対象)として

平成 27 年度年度に契約・購入し葉山キャンパスに提供した電子ジャーナル及び書籍は以下になります。

### 電子ジャーナル

- Oxford Journals 2014 フルコレクション(259 タイトル)
- SAGE Premier 2013 (661 タイトル)
- Annual Reviews Sciences Collection (33 タイトル)
- CiNii (567 タイトル)
- その他 (23 タイトル)

### 書籍

- 洋書(新規 182 冊・累計 24,754 冊)
- 和書(新規 550 冊・累計 22,229 冊)

なお、平成 27 年度の貸出総数は書籍 582 冊・視聴覚資料 132 点でした。

## 5.3.2 情報基盤整備推進部

葉山キャンパス・横浜データセンターの情報ネットワーク・情報システムを核とした総合研究大学院大学における情報基盤の整備・管理・運用、およびそれに伴う調査、研究開発、教育情報環境の利用支援を行っています。平成 27 年度の主な活動は以下となります。

### ■ 情報サービス

総研大クラウド等の情報基盤を利用し、次の情報サービスの提供を行いました。

- WEB ホスティングサービス
  - 転送メールサービス(修了生への生涯メール転送サービスを含む。)
  - TELAS@SOKEN (総研大遠隔講義支援システム)
  - TV 会議
  - 電子メールサービス(メーリングリストの利用を含む。葉山キャンパス限定)
  - ACCESS@SOKEN (学術連携・共同教育支援システム)
- 情報ネットワーク・情報システムの整備
- 情報ネットワークシステム: 葉山キャンパスでの有線 LAN に関わるネットワークスイッチおよび DNS/DHCP システムの更新
  - 総研大 WEB メールシステムの導入
- 基盤機関・大学共同利用機関等との連携
- セキュリティ・ワークショップ 2015 (SWS2015) の開催支援(平成 27 年 12 月 10 日～12 月 11 日、@ 高エネルギー加速器研究機構)

## 5.4 学生のための賞

平成 26 年度から、科学者として活躍している修了生の研究を顕彰することを目的とした「総研大科学者賞」と、科学者を志す在学生の研究の奨励を目的とした「総研大未来科学者賞」を新設しました。また、在校生の優れた業績に対して送られる長倉賞は毎年、選考、授賞しています。

### ■ 総研大科学者賞

総研大科学者賞について5名の応募があり、総研大科学者賞選考委員による書類審査及び平成 28 年 1 月 29 日(金)開催の選考委員会において、研究内容を中心に国際性、学際性、科学と社会の関係についての見識について総合的に判断した結果、島村一平氏を第 2 回総研大科学者賞の受賞者と決定しました。

- 島村 一平(文化科学研究科・地域文化化学専攻)ブリヤート人のシャーマニズム研究

### ■ 総研大未来科学者賞

平成26年度から新たに、科学者を志す在学生の研究の奨励を目的として「総研大未来科学者賞」を新設しました。本年度は次の2名の方が受賞されました。

- 大西響子(物理科学研究科天文科学専攻)「巨大ブラックホールと母銀河の共進化の解明に向けたブラックホール質量の観測的研究」
- 田上悠太(複合科学研究科統計科学専攻)「銀行債権の信用リスクの分析と推定」

### ■ 長倉研究奨励賞・総研大研究賞

長倉研究奨励賞は本学の初代学長長倉三郎氏の寄附金をもとに同氏の意志に基づき、本学の学生が行っている研究のうち特に優秀な研究を奨励するために設けられました。長倉研究奨励賞選挙委員会の審議によって、「総合研究大学院大学研究賞」が選定され、その中から特に優れた研究に「長倉研究奨励賞」が贈られます。本年度の受賞者は次の通りです。

#### 長倉研究奨励賞

- 黄 昱(文化科学研究科・日本文学研究専攻)『徒然草』の漢籍受容と漢訳・継承
- 武田 浩平(先導科学研究科・生命共生体進化学専攻)タンチョウの儀式化した信号:なぜ、どのように多様なディスプレイを行うのか?

#### 総合研究大学院大学研究賞

- 谷津 遼平(生命科学科・基礎生物学専攻)アメリカアリゲーター (*Alligator mississippiensis*) における温度依存型性決定機構の研究
- 森田 理仁(先導科学研究科・生命共生体進化学専攻)進化から見たヒトの少子化:日本を対象として

## 5.5 修了生ネットワーク

総研大コミュニティーを構成するための活動も様々に行われています。

### ■ 総研大同窓ネットワーク(Anet)

総研大修了生を中心に、教職員、在学生、教員 OB など総研大コミュニティーの方をメンバーとする学術文化交流ネットワーク「総研大同窓ネットワーク」SOKENDAI Alumni Network を運営しています。略称は SOKENDAI-Anet、あるいは Anet です。Anet のウェブページへは、総研大のトップページから、「修了生の方へ」-「総研大同窓ネットワーク」とクリックして入って下さい。

「Anet ウェブページには、修了生の研究成果のミニレビュー(公開ページ)や、進路支援情報、修了生統計、学位授与式写真など(要認証ページ)が掲載されています。

## 6.国際連携推進事業

平成 27 年度より、これまで学融合推進センター事業や特別経費事業等として実施されてきた国際連携に関する各事業を集約し、新たに国際連携推進委員会の議を経て実施する、本学全体の「国際通用性」に資する「国際連携推進事業」を開始しました。

連携推進事業（本部主導）	支援事業（研究科・専攻主導）
<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 広報・教育連携のための外国訪問等</li> <li>◆ JSPSサマー・プログラム</li> <li>◆ 国際コミュニケーション（学生交流事業）</li> <li>◆ 総研大-UST共同セミナー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 海外学生派遣事業</li> <li>◆ 若手教員海外派遣事業</li> <li>◆ 海外学生・研究者招聘プログラム               <ul style="list-style-type: none"> <li>● 総研大アジア冬の学校</li> <li>● 体験入学プログラム</li> </ul> </li> <li>◆ 国際研究集会支援事業</li> <li>◆ 国際交流協定等に関する事業</li> <li>◆ 全学的語学教育事業支援</li> </ul>
国際連携推進委員会	

### 6.1 連携推進事業

#### 6.1.1 国際的な広報・教育連携のための主な外国訪問

##### ■ ベトナム

10月29日から11月3日まで、松原英雄教授(宇宙科学専攻)、三原智教授(素粒子原子核専攻)、大谷寛明准教授(核融合科学専攻)、他事務職員2名の計5名で、ハノイ及びホーチミンを訪問し、日本留学フェアに参加、また Hanoi University of Science and Technology、Vietnam Academy of Science and Technology (VAST)、University of Science and Technology (VNUHUM)、及び International University (IU-VNUHCM) の4大学にて、今後の連携の可能性にて話し合いました。

##### ■ タイ

12月13日から14日まで、稲富裕光教授(宇宙科学専攻)、宇野彰二教授(素粒子原子核専攻)、中西秀哉准教授(核融合科学専攻)、他事務職員2名の計5名で、バンコクを訪問し、日本留学フェアに参加、また JSPS バンコク研究連絡センターにて面談、マヒドン大学にて総研大の紹介を行いました。1月29日には、宇野彰二教授(素粒子原子核専攻)、鈴木康浩准教授(核融合科学専攻)、他事務職員2名の計4名で、チェンマイ大学を訪問し将来の連携の可能性について話し合いを行い、1月30日には日本留学フェアに参加しました。

## ■ 台湾

3月16日から18日まで、永山國昭理事、平田光司教授(生命共生体進化学専攻、学長補佐・学融合推進センター長)、内川明佳助教(学融合推進センター)にて、台湾中央研究院を訪問し、同研究院が進めるTaiwan International Graduate Program (TIGP)と総研大との連携の可能性について意見交換を行いました。

### 6.1.2 JSPS サマー・プログラム

本学は、過去20年にわたり、欧米の若手研究者を短期招聘する「サマー・プログラム」に協力し、現在は、独立行政法人日本学術振興会(JSPS)との共催にて実施しています。本プログラムは、アメリカ合衆国、英国、フランス、ドイツ、カナダ及びスウェーデンの6カ国の博士号取得前後の研究者に対し、夏期2ヶ月間、国公私立大学、国立研究機関などを受入機関とし共同研究の機会を提供するものです。平成27年度も、来日後1週間に、115名の若手研究者(JSPSフェロー)が湘南国際村センターに一堂に会し、本学が中心となり企画、実施する日本語研修、ホームステイ等のオリエンテーションに参加しました。

## ■ 総研大研究紹介及びグループディスカッション

オリエンテーション期間中、本学のプレゼンスが十分でない、また本学教員や学生との交流活性化の取組が不十分であるとの課題があったため、平成27年度より、本学教員14名による研究の紹介と、そのテーマに沿ったグループディスカッションを実施しました。当日、JSPSフェロー及び本学学生は14のグループに分かれ、活発な議論が行われました。

### 6.1.3 国際コミュニケーション

JSPS サマー・プログラムのオリエンテーション期間中の6月10日から12日まで、本学学生を対象とした「国際コミュニケーション」が実施されました。英語によるポスタープレゼンテーションの実践的知識の向上を目的とするもので、最終日には、JSPSフェローとともにポスタープレゼンテーションに参加しました。参加した6名の学生からは「自信がついた」と非常に好意的なフィードバックが得られました。

### 6.1.4 第2回 総研大—UST 共同セミナー

11月26日から28日の3日間、本学の協定締結大学である韓国の科学技術連合大学院大学校(University of Science and Technology)とともに、葉山キャンパスにて学融合レクチャー「ビッグデータと計算科学ワークショップ」を開催しました。USTからは教職員・学生33名、総研大からも7名の学生を中心に、学長・理事を始め多くの参加がありました。

## 6.2 支援事業

### 6.2.1 海外学生派遣事業

国際的に通用する研究者の育成を目的として、国際共同研究活動及び国際的研究能力育成に資するプログラムに参加する本学学生に対して、参加に必要な経費を支援する事業です。平成 27 年度には 19 件の応募があり、以下のとおり 17 件を採択しました。

No.	専攻	氏名	派遣先・受入機関(国・地域)	滞在期間
<b>文化科学研究科</b>				
1	地域文化学	金 セツピョル	RAI International Festival of Ethnographic Film (Bristol), Granada Centre for Visual Anthropology (Manchester), The Natural Death Center (London) (英国)	H27/6/12 - 6/28
2	地域文化学	高木 仁	東ニカラグア、北大西洋自治州北海岸地方ミスキート村落(ニカラグア)	H28/1/23 - 2/28
3	日本歴史研究	君島 彩子	University of Erfurt(ドイツ)	H27/8/17 - 8/31
4	日本歴史研究	秋山 かおり	米国国立公文書館サンフランシスコ分館 / 米国国立公文書館 II(米国)	H28/2/15 - H28/2/29
5	日本文学研究	黄 昱	泉州、福州(中国)	H27/6/12-6/25
<b>物理科学研究科</b>				
6	構造分子科学	橋谷田 俊	グラスゴー大学(英国)	H27/11/22 - 12/6
7	機能分子科学	石渡 大貴	チュラロンコン大学(タイ)	H28/2/8 - 2/29
<b>高エネルギー加速器科学研究科</b>				
8	素粒子原子核	富井 正明	ブルックヘブン国立研究所(米国)	H28/1/14 - 1/29
<b>複合科学研究科</b>				
9	情報学	Bui Van Thach	INRIA (French National Institute for computer science and applied mathematics)(フランス)	H27/10/3 - 11/19
10	情報学	Alvaro Gradillas Nestor	ケンブリッジ大学(英国)	H27/8/17 - 9/15



11	統計科学	Lu Xiaolei	カリフォルニア大学バークレー校 / 南カリフォルニア大学・(米国)	H28/1/14 - 2/28
12	極域科学	浅井 博明	アラスカ大学フェアバンクス校(米国)	H28/1/23 - 2/28
<b>生命科学研究所</b>				
13	生理科学	鈴木 迪諒	Leuven Catholic University(ベルギー)	H27/11/8 - 12/7
14	遺伝学	今井 亮輔	ウッズホール海洋生物学研究所(MBL)(米国)	H28/1/31 - 2/22
15	遺伝学	Xiaokaiti Xiayire	CAS-MPG Partner Institute for Computational Biology(中国)	H28/2/15 - 2/29
<b>先導科学研究科</b>				
16	生命共生体 進化学	Chen Pei-Ju	辞退	--
17	生命共生体 進化学	Anik Budhi Dharmayanthi	中央研究院生物多様性研究センター(台湾)	H27/12/3 - H28/1/25

## 6.2.2 若手教員海外派遣事業

本学の教育研究の中核を担う国際的視野に富む教員を養成するため、優れた若手教員を海外へ派遣し、海外の大学・研究機関等において調査研究活動に従事できるよう支援する事業です。本事業を通じて、本学教員の教育研究能力及び国際通用性等の向上を図るとともに、総研大国際ネットワークの構築・強化に資することも目的としています。平成27年度には13件の応募があり、以下の8件を採択しました。

No.	専攻	氏名	研究課目	派遣先・受入機関 (国・地域)	滞在期間
<b>文化科学研究科</b>					
1	日本歴史研究	原山 浩介	20世紀前半のハワイにおける社会運動とインターナショナリズムに関する研究	University of Hawai'i at Mania(米国)	H27/9/25 - H28/2/20

## 物理科学研究科

2	核融合科学	成嶋 吉朗	多様な3次元平衡磁場配位における磁気島ダイナミクスの共通理解の形成 (核融合学)	Centro de Investigaciones Energéticas, Medioambientales y Tecnológicas (CIEMAT), Laboratorio Nacional de Fusión (スペイン)	H27/6/21 - 9/18
3	宇宙科学	田村 隆幸	X線観測による宇宙の大規模構造と進化の研究 (宇宙物理学)	University of Helsinki, Department of Physics (フィンランド)	H27/9/26 - 10/26

## 高エネルギー加速器科学研究科

4	素粒子原子核	井岡 邦仁	長期間ブラックホールジェットと宇宙線	The Hebrew University of Jerusalem, The Racah Institute of Physics (イスラエル)	H27/6/22 - 8/29
5	素粒子原子核	川崎 真介	高強度超冷中性子源の開発	Canada's national laboratory for particle and nuclear physics (TRIUMF), Particle Physics (カナダ)	H28/1/26 - 2/29

## 複合科学研究科

6	情報学	小林 亮太	電子メールデータから人から人への情報の流れを分析する手法の開発	University of Namur, Department of Mathematics (ベルギー)	H27/9/6 - 12/11
7	情報学	鄭 顕志	制御された自己適応システムのためのソフトウェア工学に関する研究	Universidad de Buenos Aires (アルゼンチン)	H28/1/16 - 2/18

## 先導科学研究科

8	生命共生体進化学	那須 浩郎	東アジアにおける栽培植物の進化と農耕の起源に関する植物考古学的研究	University College London, Institute of Archaeology (英国)	H27/11/5 - H28/2/16
---	----------	-------	-----------------------------------	--	---------------------

## 6.2.3 海外学生・研究者招聘プログラム

本プログラムは、海外より学生・研究者を招聘し、共同研究・共同セミナー等の実施を通じ、本学の教育研究能力及び国際通用性等の向上を図るとともに、海外で活躍する修了生等と連携した総研大国際ネットワークの構築・強化に資することも目的としています。平成 27 年度には 20 件の応募があり、以下のとおり 9 件を採択しました。

No.	専攻	氏名	事業名	参加対象	実施日程 (実施場所)
<b>物理科学研究科</b>					
1	構造分子科学	山本 浩史	分子科学二専攻合同・アジアインターンシッププログラム	物理科学研究科と交流協定を締結している大学(チュラロンコン大学・カセサート大学・マヒドン大学・マラヤ大学)の学生	H27/9 月から H28/3 月にかけて各学生 5 ヶ月間(分子科学研究所)
2	核融合科学	石黒 静児	アジア冬の学校	アジア地域を中心とした海外および国内の学生・若手研究者	H27/12/1 - 12/4(核融合科学研究所、分子科学研究所)H28/1/26 - 1/28(国立天文台三鷹キャンパス)H28/2/8 - 2/10(宇宙航空研究開発機構相模原キャンパス)
3	核融合科学	石黒 静児	アジア冬の学校(追加申請)	アジア地域を中心とした海外および国内の学生・若手研究者	H27/12/1 - 12/4(核融合科学研究所、分子科学研究所)H28/1/26 - 1/28(国立天文台三鷹キャンパス)H28/2/8 - 2/10(宇宙航空研究開発機構相模原キャンパス)
4	核融合科学	津守 克嘉	NBI 用負イオン源内におけるセシウムダイナミクス	Dr. Roland Friedl Post doctoral researcher, University of Augsburg	H28/2/1 - 2/21(核融合科学研究所)

高エネルギー加速器科学研究科					
5	素粒子 原子核	三原 智	世界最高強度 パルスミュオン ビームによる ミュオン物理	国内外のミュオン素粒 子物理研究者、学生	H27/10/28 - 10/30(高 エネルギー加速器研究 機構東海キャンパス)
生命科学研究所					
6	基礎 生物学	高田 慎治	岡崎生命科学 インターンシッ ププログラム	海外の優秀な大学生お よび修士学生	採択日から H28/3/31 (基礎生物学研究所、生 理学研究所)
7	基礎 生物学	高田 慎治	岡崎生命科学 インターンシッ ププログラム (追加申請)	海外の優秀な大学生お よび修士学生	採択日から H28/3/31 (基礎生物学研究所、生 理学研究所)
8	遺伝学	鈴木 えみ子	遺伝研体験入 学プログラム	海外の生命科学系大学 院生及び学部最終学年 生	H27/5/25 - 9/4(国立 遺伝学研究所)
先導科学研究科					
9	生命共生 体進化学	本郷 一美	西アジア新石 器時代におけ る食性の研究	先導科学研究科、生命 科学研究科、文化科学 研究科の院生・修了生、 他大学の大学院生	H27/7/20 - 8/31(葉山 キャンパス)

## 6.2.4 国際研究集会支援事業

本事業は、国際的な学術交流の促進に寄与し、国際連携を強く推進する「総研大」のプレゼンス向上に資することを目的として、本学専攻または本学専攻を置く基盤機関が主催する国際研究大会(国際シンポジウム、国際フォーラム、国際セミナー等)に対し、一定の要件の下、開催経費の一部を支援するものです。平成27年度には9件の応募があり、以下のとおり8件を採択しました。

No.	専攻	氏名	事業名	参加対象	実施日程 (実施場所)
文化科学研究科					
1	日本文学 研究	山下 則子	第39回国際 日本文学研究 集会	日本文学に関心のある者(研究 者・大学院生・学生・留学生等)	H27/11/14 - 11/15(国文学研 究資料館)

## 物理科学研究科

2	核融合科学	武藤 敬	第 25 回国際土岐コンファレンスープラズマと核融合の科学革新による未来創成	国際組織委員会と国際プログラム委員会が取りまとめる招待講演者及び一般講演申込による参加者	H27/11/3 - 11/6 (セラトピア土岐)
3	宇宙科学	安部 正真	宇宙物質科学シンポジウム (HAYABUSA2015)	国内外の宇宙物質科学研究者、惑星科学研究者、惑星探査関連研究者、関連企業、学生	H27/11/18 - 11/20 (宇宙航空研究開発機構相模原キャンパス)

## 高エネルギー加速器科学研究科

4	加速器科学	照沼 信浩	総研大ーKEKーインド工科大共催加速器スクール	総研大スタッフ、JAEA-東海スタッフ、理研スタッフ、インド工科大学院生、ムンバイ大学院生、その他インド国内院生	H28/2 月末 (インド工科大学ボンベイ校)
5	素粒子原子核	西村 淳	KEK 総研大理論研究会	国内外の関連分野の研究者約 100 名	H28/1/5 - 1/8 (高エネルギー加速器研究機構)
6	素粒子原子核	北野 龍一郎	KEK 現象論研究会 2016	国内外の素粒子理論と素粒子実験の研究者。(総研大教員・大学院生、KEK 研究員を含む)	H28/2/9 - 2/12 (高エネルギー加速器研究機構)
7	素粒子原子核	土手 昭伸	KEK・総研大国際研究会「J-PARC で展開されるハドロン物理 2015」	国内外のハドロン原子核物理、理論・実験研究者 (大学院生、ポスドク、大学・研究所スタッフ)	H28/3/2- 3/4 (いばらき量子ビーム研究センター)

## 複合科学研究科

8	情報学	井上 克巳	第 25 回帰納論理プログラミング国際会議	確率的論理学習等の学習アルゴリズムを含む基礎研究、記号表現を用いることによる複数概念の関係学習・データマイニング、生物学を始めとする科学的発見、テキストやウェブからのマイニング、ロボットの行動学習、ダイナミック環境における学習、最適配置などの工学的利用、認知科学・社会科学への適用、等への応用に関する国際的な研究に従事している科学者または関心をもつ学生。	H27/ 8/20 - 8/22 (京都大学)
---	-----	-------	-----------------------	---	-------------------------

## 6.2.5 国際交流協定等に関する事業

協定に基づく学術交流あるいはその展開を示すもの及び留学フェアの実施に関わる申請について、一定額を支援するものです。平成 27 年度には 2 件の応募があり、以下のとおり 2 件を採択しました。

No.	専攻	氏名	事業名	参加対象	実施日程 (実施場所)
<b>物理科学研究科</b>					
1	天文科学	本間 希樹	NARIT－UST －GUAS アジ ア VLBI 冬の 学校	VLBI 天文学および技術に興味 のある学生 30 名程度(タイ約 10 名、日本約 5 名、韓国約 5 名、他地域約 10 名)	H28/2/15 - 2/19(タイ)
<b>高エネルギー加速器科学研究科</b>					
2	素粒子 原子核	宇野 彰二	日本留学 フェア	日本への留学希望者(高校生・ 大学生等)・高校等の進路指導 担当教員・大学等の国際交流 担当者等	H28/1/30(チェ ンマイ大学)

## 6.2.6 全学的語学教育事業支援

国際的研究者コミュニティの中でリーダーシップを発揮する次世代の研究者育成を目的に、「語学教育プログラム」の開発や実践を支援しています。

## 7.社会貢献・社会連携

### 7.1 学校教育への協力:横高アカデミア

高大連携の一つとして、地元の県立横須賀高校に協力し、総研大教員を高校に派遣しました。選択科目「知の探求」2単位として平成24年度より開始された「横高アカデミア 1st Phase」に対し、27年度は以下の総研大教員による計8回の講義を行いました。

- 特別講義(5/7):「進化・集団遺伝学」、高畑尚之名誉教授
- 第1回(6/10):「動物倫理学入門」、塚原直樹助教
- 第2回(7/8):「浄土教文化に関する研究」、七田麻美子特任准教授
- 第3回(10/7):「分子進化形態学」、寺井洋平助教
- 第4回(10/28):「進化生理学」、颯田葉子教授
- 第5回(11/11):「内分泌学」、井口泰泉教授
- 第6回(12/16):「天文学」、眞山 聡講師
- 第7回(1/20):「生物物理学」、永山國昭理事

### 7.2 地域貢献

#### 7.2.1 講演会開催等

- 「湘南国際村フェスティバル2015」日程:平成27年5月3日(日・祝)  
(5.1.5 平成27年度地域交流イベント開催報告 参照)
- サイエンスカフェ(5.1.5 平成27年度地域交流イベント開催報告 参照)  
かながわ国際交流財団湘南国際村 学術研究センターとの共催(葉山町後援)で行っています。
  - 「湘南国際村フェスティバル2015」(平成27年5月3日)で実施したもの
  - 平成28年1月31日に実施したもの
- 中高生のための科学セミナー(5.1.5 平成27年度地域交流イベント開催報告 参照)  
横須賀市教育委員会の後援で毎年開催しています。
- 第18回先導科学研究科・学術講演会(2015年11月3日開催 参加者60名)
  - 水島 希(先導科学研究科)講演「ニモはパパと会えるのか? -社会の中の『科学』を考える」
  - 藤戸尚子(先導科学研究科)講演「アフリカから世界へ-人の移動と心の進化-」

- 総合研究大学院大学主催 市民セミナー「平塚市で捕獲されたカラスの有効利用と音声を使ったカラス撃退装置の紹介」(参加者 約 40 名)  
講師:塚原直樹(学融合推進センター・助教)  
10 月 20 日に平塚市吉沢公民館にて、一般市民を対象に、有害捕獲されたカラスの有効利用として、食用としての活用の可能性に関する研究の紹介を行った。また、三菱電機と共同開発を行っているカラス撃退装置を紹介した。なお、本セミナーの様子は、Yahoo!トップページ主要トピックスを始め、TV 神奈川、読売新聞など9件のメディアで紹介された。
  
- デジタルハリウッド大学大学院、総合研究大学院大学共同主催 市民セミナー「カラスを騙し対話するドローンを作りたい」(参加者 約 30 名)  
講師:塚原直樹(学融合推進センター・助教)、末田航(シンガポール国立大学インタラクティブデジタルメディア研究所・リサーチフェロー)  
12 月 14 日にデジタルハリウッド大学にて、一般市民を対象に、カラスとの共生を目指し、ドローンを対話装置として活用する研究について紹介した。

## 7.2.2 本部図書館の利用

本部図書館は近隣住民の利用(貸し出しを含む)を許可しています。また、国立国会図書館の窓口として登録する事により、国立国会図書館が所蔵するデジタル資料を閲覧できるサービスを提供しているほか、神奈川県立図書館の出先の機能も有しており、神奈川県立図書館所蔵の図書について、総研大附属図書館を介して、教職員と周辺市民に貸出しを行っています(KLネットサービス)。平成 27 年度の一般利用は 178 人、貸出件数は図書 35 件、視聴覚資料 35 件でした。



## 付録 A 平成 27 年度行事日程

4月6日	春期入学式
4月6-10日	平成27年度前学期総研大フレッシュマン・コース
4月6日	総研大科学者賞(第1回)・総研大科学者賞(第1回)授賞式
4月24日	学融合推進センター平成27年度公募型研究事業新規募集開始
4月24日	平成27年度新規研究事業公募説明会
4月25日	総研大プロジェクト第9回企画会議(歴史民俗博物館)
5月3日	湘南国際村フェスティバル2015「太陽系の進化を探る―「はやぶさ」から「はやぶさ2」へ―」/サイエンスカフェ「科学を楽しむ」
5月20日	総研大葉山セミナー 岡田泰伸学長「生体内クロライドイオンの役割 ― 脇役から主役へ ―」
6月10-12日	国際コミュニケーション
6月10-16日	JSPS サマープログラム開講式およびオリエンテーション
6月22日	新規研究課題ヒアリングおよび採択(学融合推進センター運営委員会)
7月28日	中高生のための科学セミナー「ペンギンとマグロとクジラの最新科学」
8月18日	JSPS サマープログラム報告会(ホテルグランドパレス)
9月28日	平成27年度秋季学位記授与式
9月28日	長倉研究奨励賞(第21回)・総合研究大学院大学研究賞授賞式
10月5日	平成27年度秋季入学式
10月5-8日	平成27年度後学期フレッシュマン・コース
10月29日-11月3日	国際連携推進事業 ベトナム・VAST等訪問、日本留学フェア参加
11月3日	第18回先導科学研究科・学術講演会
11月9-10日	総研大プロジェクト第10回企画会議(分子研・基礎生物学研)
11月26日-28日	総研大-UST 共同セミナー「ビッグデータと計算科学ワークショップ」
11月29日	大学共同利用機関シンポジウム 2015 参加
12月13日-14日	国際連携推進事業 タイ・マヒドン大学等訪問、日本留学フェア参加
1月28日-29日	学融合推進センター公募型研究事業公開研究報告会
1月22日	総研大学術シンポジウム「学術とことば」
1月29日	総研大科学者賞(第2回)受賞者決定(授賞式 H28.4.4)
1月31日	サイエンスカフェ「脳とコンピューターをつなげる」
2月10日	総研大未来科学者賞(第2回)受賞者決定(授賞式 H28.4.4)
3月16日-18日	国際連携推進事業 台湾・Academic Sinica 訪問
3月24日	平成27年度春季学位記授与
3月27日	総研大国際シンポジウム「日本列島人の起源と成立」

## 付録 B 平成27年度 YASU 通信

『Yasu 通信』は、岡田泰伸学長を中心に、より良い大学運営の改善、教育研究の拡充のため強いリーダーシップを発揮して取り組む大学改革の状況や、将来の研究を担う学生の皆さんへの熱いメッセージをダイレクトメールとして平成 26 年 7 月より発行され始め、平成 26 年度は計 3 回、平成 27 年度は計 5 回発信されました。

- |       |                 |  |
|-------|-----------------|--|
| 第 4 回 | 2015 年 4 月 15 日 | “新しい学問の創造に向けて総研大で共に学ぼう”                              |
| 第 5 回 | 2015 年 6 月 1 日  | “リポジトリへの論文登録のお願い”                                    |
| 第 6 回 | 2015 年 8 月 7 日  | “第 3 期中期目標期間における総研大の機能強化構想”                          |
| 第 7 回 | 2015 年 11 月 9 日 | ”小林誠先生および中村真先生との対談を終えて<br>—ますます増す総研大と総研大学生・修了生の重要性—” |
| 第 8 回 | 2016 年 1 月 19 日 | ”健康な心身と高いモチベーションで研究者アイデンティティの確立を”                    |

## 付録 C 研究業績等

総研大の他の報告書に掲載されていない方の業績等を記載しています。書式等は各分野の方式に従って記載しております。

### ■ 学長 岡田 泰伸

岡田泰伸 (2015) OPINION: バックグラウンドからフォアフロントへ: 細胞生死と生体恒常性に関わるセンサーチャンネル(後編その3). *日本生理学雑誌* 77, 15-18 (2015年 4月)

### ■ 学長補佐 伏見 譲

#### 原著論文

Shigefumi Kumachi, Yuzuru Husimi, Naoto Nemoto, An RNA-binding peptide consisting of four types of amino acid by in vitro selection using cDNA display, *ACS Omega* 1, 52-57 (2016)

#### 編著書・訳書

伏見康治著、江沢洋、伏見譲、伏見諭編『伏見康治コレクション別巻 物理学論文選集・原子力論集』(日本評論社、2015.9)

猪飼篤, 伏見譲 (監修)、櫻井実, 佐藤衛, 高橋栄夫, 中西淳 (共訳), Tinoco 他『バイオサイエンスのための物理化学(第5版)』(東京化学同人, 2015.6)

伏見譲、創刊30周年歴代編集委員の思い: Viva Parity!, *パリティ*, 30:10, 64 (2015)

伏見譲、コラム: 地球外生物は本当にいるのかな?、in 美宅成樹『モダンアプローチの生物科学』(共立出版、2015) pp.241-242

### ■ 学長付講師 眞山 聡 (2015年4月～2016年3月分)

#### 原著論文(査読有学術雑誌のみ記載)

1. de Leon, Jerome; Takami, Michihiro; Karr, Jennifer L.; Hashimoto, Jun; Kudo, Tomoyuki; Sitko, Michael; **Mayama, Satoshi**; et al., "Near-IR High-resolution Imaging Polarimetry of the SU Aur Disk: Clues for Tidal Tails?", *ApJ*, 806, L10, 2015 (査読有)(全著者数 56名、掲載順番 7番目)
2. Rich, Evan A.; Wisniewski, John P.; **Mayama, Satoshi**; Brandt, Timothy D.; Hashimoto, Jun; Kudo, Tomoyuki; Kusakabe, Nobuhiko; et al., "Near-IR Polarized Scattered Light Imagery of the DoAr 28 Transitional Disk", *AJ*, 150, 86, 2015 (査読有)(全著者数 55名、掲載順 3番目)
3. E. Akiyama, T. Muto, N. Kusakabe, et al., "Discovery of a Disk Gap Candidate at 20 AU in TW Hydrae", *ApJ*, AAS, 802, 17, 2015 (査読有)(全著者数 57名、掲載順 17番目)
4. Momose, Munetake; Morita, Ayaka; Fukagawa, Misato; et al., "Detailed structure of the outer disk around HD 169142 with polarized light in H-band", *PASJ*, 67, 83, 2015 (査読有)(全著者数 62名、掲載順 17番目)

### ■ 学融合推進センター 特任教授 平田光司 (2016年1月～3月分)

#### 学会講演

高岩義信、平田光司「原子核研究将来計画・素粒子研究所のための高エネルギー加速器機種変更決定に関わる原子核特別委員会におけるプロセスの再検討」日本物理学会 (2016.3.19 東北学院大学)

平田光司、高岩義信「高エネルギー研究者集団の形成における科研費総合研究班(宮本班)の役割」日本物理学会 (2016.3.19 東北学院大学)

■ 学融合推進センター 助教 塚原 直樹(2016年1月～3月分)

学会発表

1. 塚原直樹、大塚諒、葉山美咲、小澤壯行、カラス肉はどんな味か?そして許容されるか?、日本畜産学会121回大会、東京都 [口頭発表]

社会活動等

【教育活動】

1. 会津農林高校「動物倫理学入門」

【産業界との協力】

1. 三菱電機株式会社との生物排除装置に関する共同研究

【メディア出演等】

1. 日本テレビ「変ラボ」、2016年1月11日
2. milsil(2016年第1号)、2016年1月発行
3. 神奈川新聞、2016年1月24日
4. 神奈川新聞、2016年1月27日

■ 学融合推進センター 助教 小松睦美(2016年1月～3月分)

A. 業績リスト (査読有) Proceedings

1. Komatsu M., Fagan T., Yamaguchi A., Mikouchi T., Zolensky M., Yasutake M. 2016. Petrology of Amoeboid Olivine Aggregates in Antarctic CR Chondrites: Comparison with Other Carbonaceous Chondrites, 47<sup>th</sup> Lunar and Planetary Science Conference, id. 1906.
2. Zolensky M. E., Mikouchi T., Hagiya K., Ohsumi K., Komatsu M., Chan Q. H. S., Le L., Kring D., Cato M., Fagan A. L., Gross J., Tanaka A., Takegawa D., Hoshikawa T., Yoshida T., Sawa N. 2016. Unique View of C Asteroid Regolith from the Jbilet Winselwan CM Chondrite, 47th Lunar and Planetary Science Conference, id. 2148.
3. Mikouchi, T., Hagiya K., Sawa N., Kimura M., Ohsumi K., Komatsu M., Zolensky M. 2016. Synchrotron Radiation XRD Analysis of Indialite in Yamato-82094 Ungrouped Carbonaceous Chondrite, 47th Lunar and Planetary Science Conference, id. 1919.

B. 外部資金

科学研究費補助金・若手B：「太陽系初期の固体物質進化：彗星塵と小惑星物質の比較鉱物学」  
課題番号 (24740358) 研究代表者 (2012/04/01–2016/03/31)

C. 教育活動・社会連携活動など

日本惑星協会 アドバイザリーカウンシル

■ 学融合推進センター 特任准教授 七田 麻美子(2016年1月～3月分)

学会発表等

1. 七田麻美子・塚原直樹 「高大連携教育における動物倫理教育の実践について」平成28年3月 大学教育研究フォーラム 京都府

■ 学融合推進センター 特任准教授 西中 美和(2016年2月(着任)～3月分)

学会発表

西中美和『学術分野融合におけるイノベーション思考の形成および影響要因の考察』第6回知識共創フォーラム, 2016/3/12-13, <http://www.jaist.ac.jp/fokcs/> 【口頭発表】

教育活動・社会連携活動など

プロジェクトマネジメント学会論文審査員

## 付録 D 学生の研究業績

本学学生を著者に含む 2015 年に発表された論文等のなかから、Yasu 通信での学長の呼びかけ(平成 28 年 11 月)に応じて情報が寄せられたものを掲載します。このため網羅的なものではありません。ここに記載されているのは、学生の所属専攻、氏名、題名、ジャーナル等の名称のみです。

物理科学研究科

- 天文科学専攻

- Kotomi Taniguchi, Hiroyuki Ozeki, Masao Saito, Nami Sakai, Fumitaka Nakamura, Seiji Kamenon, Shuro Takano, and Satoshi Yamamoto, "Implication of Formation Mechanisms of HC<sub>5</sub>N in TMC-1 as Studied by <sup>13</sup>C Isotopic Fractionation," *The Astrophysical Journal* 817, pp.147-153, January 28 (2016).
- Kotomi Taniguchi, Masao Saito, and Hiroyuki Ozeki, "<sup>13</sup>C Isotopic Fractionation of HC<sub>3</sub>N in Star-Forming Regions: Low-Mass Star-Forming Region L1527 and High-Mass Star-Forming Region G28.28-0.36," *The Astrophysical Journal* 830, pp.106-112, October 17 (2016).
- Kyoko Onishi, Satoru Iguchi, Kartik Sheth, and Kotaro Kohno, "A MEASUREMENT OF THE BLACK HOLE MASS IN NGC 1097 USING ALMA," *The Astrophysical Journal* 806, pp.39-46, 2015 June 10.

- 核融合科学専攻

- 坂東, 隆宏; 福原, 舞; 小菅, 晃太郎; 鈴木, 昂太; 笠, 嗣瑠; 奥本, 素子「科学への関心が低い層を対象とした Web サイト「研究者時計」の作成・公開結果：楽しく科学者を紹介する試みについて」*科学技術コミュニケーション* 18, pp.17-30, 2015/12/1.
- Takahiro BANDO, Satoshi OHDACHI and Yasuhiro SUZUKI, "Effects of Neutrons and  $\gamma$ -Rays on Scintillation Light in SX Diagnostics for LHD Deuterium Plasma Experiments," *Plasma and Fusion Research*, 10, pp. 1402090-1-1402090-5, 2015/12/1.

